

## 「シジュウカラの営巣(1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

シジュウカラ(四十雀)は、都会から山間地まで、本州各地に幅広く分布する野鳥だ。最近はずズメよりもよく見かけるような気がする。



シジュウカラ *Parus minor* 北軽井沢 C.Tanaka

黒い頭部、目の下の白い部分、それに胸の「黒ネクタイ」がシジュウカラの特徴で、休んでいても飛んでいても、まず見間違えることはない。春には「ツピー、ツピー、ツピー」と甲高い声で鳴き、とても目立つ。

シジュウカラやヤマガラ(山雀)といった野鳥は、本来は大木の穴に営巣する。自然にできた穴(うろ)の巣もあれば、アガゲラ(キツツキ)のあけた穴を利用する者もある。このような巣造りの性質を「樹洞性営巣」と呼ぶ。

しかし、樹洞があるような大木が減った昨今、彼らは慢性的な住宅難に陥っている。困ったシジュウカラは、横に積んだ植木鉢の穴や、時には郵便ポストまで巣にしてしまう。この住宅事情は、都会でも山間部でもあまり変わらないようだ。北軽井沢でも適当な巣箱を架ければ、ほぼ100%営巣を開始する。

通常、木で造られた野鳥の巣箱では、営巣中に内部を見ることは困難である。私は鳥類の専門家に指導してもらいながら、特注の巣箱を用意した。



写真は、北軽井沢の山荘に設置した、特注の野鳥用巣箱である。普通の巣箱よりも背が高いのは、中にカメラを設置してあるからである。実はこの巣箱、このあたりの野鳥たちにとって大変な「人気物件」で、過去8年間、毎年何らかの野鳥が営巣、子育てに成功している。



時には上の写真のように、巣箱の取り合いで決闘になることもある。この時は、巣造りを始めたヤマガラの巣箱にシジュウカラが侵入、激しい奪い合いになった。ヤマガラ(左)よりもシジュウカラ(右)のほうが若干体が大きく力もある。結局先客のヤマガラのほうが退散、途中まで完成していた巣は、シジュウカラに乗っ取られてしまった。この春も例外でなく、先日シジュウカラが巣造りを始めた。